

# 大津小便り

平成二十九年  
N O 十 七  
三月二十四日(金)  
文責 吉良智恵美

習友会五十周年を記念して、記念誌が発行され、本校にテント一張を寄贈して頂きました。ありがとうございます。

## 「おめでとう。」

### ・新しいステージに向かって・

昨日二十三日(木)に、本校体育館において、本年度の卒業式を無事、終えることが出来ました。体育館の修理が間に合わないと言われ、一時期は体育館での卒業式はあきらめていたのですが、上田建設さんが、どうにか間に合わせてくださいました。感謝です。まだ修理は十分ではありませんが、床は明るい色にしてもらっています。今年の卒業生は、九十六名。本校では、一番少ない学年でしたが、最上級生として立派に、学校をリードしてくれました。式においても、すばらしい態度と歌を披露し、在校生からのお祝いのメッセージや歌も素敵でした。中学校に行っても、「笑顔」「勇氣」そして「挑戦」で、「一つ上の自分を目指してほしい」と思っています。卒業、おめでとうございます。在校生も、無事進級が認定されました。新六年生を中心に、「一つ上の学校」を目指してください。進級おめでとうございます。

## 平成二十九年児童会役員が決定しました。

来年度の児童会役員が決定し、お別れ遠足(七日)の日に新旧役員の引き継ぎを行いました。本年度の児童会役員は、熊本地震といういつもと違う状況の中、「大津つ子」の底力を見せつけてくれました。引き継ぎ式の挨拶は、どの子どもも、自分の思いを語ってくれて立派でした。

旧役員には、学校より感謝状を渡しました。新役員も、先輩を目標に、さらに一つ上の大津小を目指してくれることと思います。

## ※新児童会役員(敬称略)

新6年

宮内愛子、甲斐遼介、金井遙香

新5年

高田蒼汰、岩本海史、黒田粋

## 学校運営協議会・外部学校評価

二月二十三日(木)に、学校運営協議会を開催し、本年度の学校経営に関する内部評価(学校側の評価分析と今後の対策)について報告し、外部評価としての意見を伺いました。一、学力について

県学力調査は、三年生以上の全教科で県平均を上回りました。しかし、領域や項目では、算数の活用力で学年差が大きかったり、前学年の内容が出来ていなかったりしました。課題の国語の読解は、改善しましたが、読書量の個人差が課題です。来年度は、個別指導の充実や家庭学習の習慣化、課題に焦点化した取組を、共通実践して参ります。

## 二、豊かな心について

子どもたちへのアンケート等をみると、学校が「楽しい」「まあまあ楽しい」と、九十%以上の子どもが答えてくれました。しかし、五十七名は、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えています。計画的な教育相談、自尊感情や自己有用感の育成を目指した教育活動の充実を図っていきます。

※詳しい学校評価内容は、別資料で、保護者の皆様に配布予定にしています。保護者アンケートの回収率は、全体で九十五%でしたが、学年間で大きな差がありました。来年度の課題でもあります。ご協力ありがとうございました。

ケータイ等のルールは？  
○アンケートによりますと、本校児童の71%が、ケータイ等のインターネットに接続可能な機器を持ち、そのうちの28%は、使う時のルールがないと答えました。さらに、所持者の11%は、一日に3時間以上をインターネット等に使用しています。心配です。

## 今年最後の「きらきら集会」



大津小竹馬ガールズ。ステップもターンも見事。下は、4年生ピンクレディース。指導役の楢木先生です。

## ・いろいろと、お世話になりました。

昨年四月の熊本地震から、もうすぐ一年が経ちます。ご周知のとおり、大津小学校の体育館を始め、校舎内外の施設も大きなダメージを受け、多くの子どもたちが、県外を含め親戚や知人の家などで避難生活を送りました。先の見えない不安で押しつぶされそうになりながらも、子どもたちと共にがんばって開催した運動会のことを思い出します。誰も経験したことのない状況の中、大津小学校の校長として、多くの判断や決断を迫られる毎日、正直、最後まで心と身体が保てるだろうか？と弱気になる自分もありました。しかし、職員と共に悩み考える中で、どうにかしたいと思えば、必ず道が見つかることも改めて感じました。もちろん、そこには、PTAの皆さんの力強いご支援があればこそです。

子どもたちの笑顔は、心のビタミン剤でした。きっと、保護者の皆様もそうだったことでしょう。

お陰で一年近く経った今、「被災を学びのマイナスにしない」と言う言葉どおり、子どもたちは、以前と同じような落ち着いた生活の中で、しっかりと今年の学びをしてくれたと感じています。ご協力、ありがとうございました。

四年間の学校便りも、この号を持ちまして終了させていただきます。お世話になりました。今後とも、地域住民として子どもたちを見守り、応援していきたいと思えます。









